

沖縄県立宮古総合実業高等学校 ハッピーキャッププロジェクトチーム



「手作り帽子でハッピーに」

抗がん剤治療を行うと、副作用で脱毛してしまう人がいます。髪が抜けることで悲しむ人もいます。吸水性の高いタオルで作った医療用帽子「ハッピーキャップ」。この帽子をかぶることで、幸せになってほしい。「ハッピーキャップ」はその想いを込め名づけられました。また、わたしたちもその想いを先輩方から受け継ぎ「ハッピーキャッププロジェクト」を行っています。

12月25日のクリスマス。わたしたちは沖縄県立宮古病院の入院患者さんにハッピーキャップを作り毎年クリスマスプレゼントとして50個渡しています。現在では、がん患者さんだけでなく、高齢の入院患者さんにも使っていただいています。



沖縄県立宮古病院



わたしたちの活動は、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを伝えるためのピンクリボン活動を行っている「まんまの会宮古島支部」宮古島のがん患者支援活動を行う「ゆうかぎの会」の皆さんにがん経験者による座談会や作り方の講習会を開いてもらいがんについての学びを深め、ハッピーキャップを一緒に作ってきました。

その時に「まんまの会」の方が作ってくださるサタパンピンは絶品で、毎回楽しみにしています。



座談会



ハッピーキャッププロジェクトは宮古島だけでなくとどまらず、沖縄本島の中部病院にも届けられています。これは、宮古病院の看護婦長さんが沖縄本島の高校生にも広げていきたいと考え、2018年から海の向こうの沖縄本島に届けています。



「ハッピーキャップの進化」

ハッピーキャップはタオルで作っているため、タオルを手に入れる必要があります。しかし、手に入れて作るにはお金が大量にかかってしまいます。そこで、まずは校内でタオルを集めることにしました。しかし、集まったタオルは銀行などの宣伝用の薄手のものがほとんどで人気がとても少なく、作っても残ってしまうことがほとんどでした。

そこで、色々な性別や年代の方にも選んで頂けるよう、色や柄選びを工夫してタオルを購入するようになりました。また、帽子に飾りをつけて見栄えをよくしていましたが、身体を横にする際に邪魔になり、頭を傷つけてしまうため、飾りはなくなりました。また、もともとは作る工程がとても難しく裁縫が苦手なメンバーはできないことが多かったのですが、そんなメンバーが作れるように縫い方が簡単なものなどいろいろな形に挑戦してきました。

髪の毛が少なくなった頭に直接接触する裏側に、段差がなく皮膚に刺激が少ないように工夫し、現在の形になりました。



初代



二代目



四代目

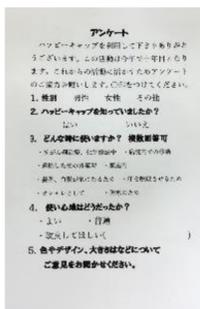


飾り付き



念願の
500個
達成!!!

わたしたちは、ハッピーキャップを被る人たちが、より快適に使えるようにハッピーキャップと共にアンケート用紙もラッピングしています。アンケートの内容は、メンバーが考えて分かりやすく作成しこの結果をもとに、ハッピーキャップの改善を進めています。



このプロジェクトをしていると「お礼のメッセージ」を頂くことがあります。宮古島は小さな島なので、直接やりとりは行えませんが、病院からの感謝状はもちろん患者さんなどのハッピーキャップ使用者からお礼の手紙を頂くことがわたしたちの活動に対する気持ちを強めてくれます。



お礼の
メッセージ



「1000個を目指し 後輩へ繋げていく」

わたしたちは今年で活動11年目を迎えます。昨年目標の500個を達成し、1000個を目指すという新たな目標へ向かって日々活動をしています。

これからの活動

①夏用ハッピーキャップ

日差しが強く暑くて、湿気の多い宮古島の夏でもかぶれるよう、試作開発中です。

②座談会の授業取入れ

今まで私たちプロジェクトメンバーの方々と行っていた座談会。その座談会をわたしたちだけでなく、他の生徒にも参加し、がん患者さんたちの体験談を聞いてほしいと思い、現在授業の中に取り入れることを考え先生と話し合いをしています。

ボランティア部紹介

沖縄県立宮古総合実業高等学校は、沖縄県のさらに離島の宮古島にあります。海洋科学科、生物生産科、食と環境科、生活福祉科、商業科の5つの特色ある学科があります。ボランティア部には、78名の部員がいて、ハッピーキャップの他に犬猫の保護や障害児施設訪問などそれぞれが興味のあるプロジェクトを進めています。